

建築デザイン学研究室(旧「建築史意匠学研究室」)

1947年に創設された5講座は、2018年4月に「建築史意匠学研究室」から「建築デザイン学研究室」へと改称し、2026年度に9年目を迎えました。近年では、歴代の先生、修了生、卒業生によって受け継がれ、蓄積されてきた建築史学・建築意匠学分野の研究成果、ノウハウ、哲学を発展させながら、「建築デザイン」を軸に、北海道の気候・風土・文化に根ざしつつ、広く北方圏を中心とするグローバルな世界を射程に入れた研究活動を行なっています。さらに、研究から導き出された知見を実践する建築デザインプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。

2025年度は、学部生5名と修士課程4名が論文を提出し、それぞれ就職・進学しました。

2026年度は、新たに学部生4名、修士課程1名、研究生1名が加わり、小澤丈夫教授、角哲准教授、内藤誠人助教、博士課程3名(社会人2名)、修士課程3名(社会人1名)、学部生4名の計14名の構成となっています。また、12月に事務員の飯沼薫さんが退職され、1月から中野谷千裕さんが新たに加わりました。

近年、研究とプロジェクトのフィールドは、道内各地はもとより日本全国さらに海外にまで及んでいます。北海道における戦後近現代建築史・建築論・設計論については、工法、素材、建築家、建築関連団体や教育機関の活動に至るまで様々な切り口から、現地調査、ヒアリング、座談会等による史料収集、研究・アーカイブ構築に継続的に取り組んでいます。産学連携のデザインプロジェクトとして販売を開始した**組立和室「くみたて2020」**は様々な団体から問い合わせを頂き、北海道内外の各地で展示・活用されています。10月11日(土)には、「現代和室の会」(会長・内田青蔵氏)のご紹介により、長野市内で開催された「第37回住生活月間中央イベント『信州住宅フェア2025』」に展示させていただき、来賓の高円宮妃殿下にもご見学いただきました。また、9月末と10月初旬には、卒業生の鈴木貴仁さん(市浦ハウジング)と安富啓さん(石塚計画デザイン事務所)らが取り組まれている、もみじ台団地(札幌市厚別区)のまちづくりイベント「まちのえんがわ日和」でも活用されました。2023年から開始した、**北海道大学研究林の木材を中心とする地域材の建築への活用に向けた産学共同研究**は3年目に入りました。高橋陸さん(日建設計)が2024年度の修士研究として行った内容は、日本建築学会技術報告集2026年2月号に掲載されました。また、最終年度となる2026年度には、研究林産トドマツ材を活用した家具の商品化に向けた開発を行う予定です。9月には、小樽の運河公園で開催された北運河エリアの活用を考えるイベント「**KITAUNGA DESIGN DISTRICT**」に参加し、同エリアのメンタルマップを来場者に描いてもらうワークショップを実施しました。その他、4月には**アンドレア・ボッコ氏**(トリノ工科大学教授)が来学され、江別の児童福祉施設や小樽の歴史的建造物の視察、意見交換、公開講演会を実施しました。後期には、オランダで活躍されている建築家・**吉良森子氏**(九州大学教授)を非常勤講師としてお招きし、集中講義と公開講演会を行なっていただきました。

最後に、2026 年度は小澤先生の最終年度になります。小澤先生のこれまでの業績を総括する企画を、角先生を中心に進めております。内容が決まりましたら、改めてご案内申し上げます。

研究室(工学部 A2-52 室)には、数十年にわたり 5 講座に受け継がれてきた焦げ茶色の共用テーブルが健在です。お時間ございましたら、ぜひコーヒーでも飲みにお立ち寄りください。



研究室の活動詳細については、Website・Facebook・Instagramにて紹介していますのでぜひご覧ください。



[Website]



[Facebook]



[Instagram]